

AI・ロボット 転機予報 Part2

④5

一方、ウイルス自体の脅威は去ったわけではなく、ウイルスと共存する新しい生活様式が求められている昨今である。

同じ原理

緊急事態宣言下、PCR検査の限界に関する報道の中で、本連載の以前の回で紹介した人工知能(AI)技術に関する緊急事態宣言に関し、機械学習の性能計測の難しさと同じ原理の話が出てきたことは印象的であった。

新型コロナ対策とAI

Laboro.AI
代表取締役CTO

藤原 弘将



07年(平19)産業技術総合研究所入所。12年ボストン・コンサルティング・グループ入社。AI系のスタートアップ企業を経て、16年にLaboro.AIを創業。

検査・創薬・防止策に活用

問題解決ツール

仮にPCR検査の性能が99%(実際はもっと低い)として、新から9900人の非感染者と100人の感染者が1万人に100人(1%)だとすると、検査で陽性と判定された198人のうち99人は正しく判別でき、残り1人だけ陽性の人を選り出すことになる。逆にPCR検査の性能が99%だとすると、検査で陽性と判定された198人のうち99人は正しく判別でき、残り1人だけ陽性の人を選り出すことになる。

新しい生活様式を確立するため、さまざまな感染防止策の中から有効なものを選び出す取り組みにAI技術を活用する。また、薬やワクチンの開発にもAI技術は使われており、AI技術を使って新型コロナウイルスに効きそうな物質の候補を洗い出す試みが数多く行われている。安が、過度な期待による全性が既に検証されている既存薬の中に新型コロナウイルスにも効く薬があれば、非常に時間のかかる創薬のプロセスを大幅に圧縮できることが期待される。

だが、ここにAIチャットボット(自動応答ソフト)を用いた自動問診と、機械学習による陽性率の推定技術を組み合わせた取り組みが中国で行われている。また、薬やワクチンの開発にもAI技術は使われており、AI技術を使って新型コロナウイルスに効きそうな物質の候補を洗い出す試みが数多く行われている。安が、過度な期待による全性が既に検証されている既存薬の中に新型コロナウイルスにも効く薬があれば、非常に時間のかかる創薬のプロセスを大幅に圧縮できることが期待される。

いである。この人たちが病院に殺到する中、医療崩壊につながるという話だった。このような比較的専門的な話が一般向けメディアに登場することは、新鮮な気持ちだった。だが、ここにAIチャットボット(自動応答ソフト)を用いた自動問診と、機械学習による陽性率の推定技術を組み合わせた取り組みが中国で行われている。また、薬やワクチンの開発にもAI技術は使われており、AI技術を使って新型コロナウイルスに効きそうな物質の候補を洗い出す試みが数多く行われている。安が、過度な期待による全性が既に検証されている既存薬の中に新型コロナウイルスにも効く薬があれば、非常に時間のかかる創薬のプロセスを大幅に圧縮できることが期待される。

(金曜日掲載)